

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	基礎デザイン実習C	
科目基礎情報					
開設学科	プロダクトデザイン科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	1 年	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	2単位	開講時間	木曜 1時限～	授業形態	実習
教科書/教材	参考作品・参考資料等は、授業中に配布、掲示する。				
担当教員情報					
担当教員	加賀武見		実務経験の有無・職種	有・デザイナー	
学習目的					
この科目を受講する学生は、基礎のプロダクトデザインとしてアイデアスケッチ、モデルの造形を修得します。プロダクトデザインの基礎として、製品のコンセプトを読み取り、機能性とその向上を提案しリデザインを行ない、これから経験していく仕事の現場で、役に立つ改善力を学び、デザインの適正を理解してユーザー満足度を計る力をを身に着けるようになります。10案のリデザインをスケッチして、提案を人に伝達していくプロセスを通じ、専門的技術を学びます。積極的に学び、ユーザビリティを考えて発想することができるようになるのがねらいである。					
到達目標					
この科目では、学生が、実習からプロダクト製品の改善点を発見し、改善案を考え、より使いやすいデザインを行い、業界で活躍するために必要になる製品観察力を向上させ、商品コンセプトを読み取り、機能と形態を改善させるアイデアを10案まとめるトレーニングを行ないます。また、スピードシェイプの立体的なモデリング表現を行い、造形力を養い、テーマに適した表現ができるようになることを目標にしている。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、プロダクトデザインの基礎的な要素、講師からの解説を受け、プロダクト製品の観察、使いやすさの評価、問題点、ユーザー満足度を調査します。、段階的に理解力を向上する授業です。講師の解説、対話から学びを深め、学生の「プロダクトデザインのリデザイン」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「改善力」を自分自身の実践し、活用できるようになることを目指す。				
注意点	この授業では、初期段階の学生にプロダクト製品の評価から、プロダクトデザインに触れてもらう機会になります。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。リデザインの手法理解しり、今後、実習授業時で求められるデザイン提案ができるように考えたベースになる実習になります。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者はこの科目合格することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	プレゼン	20%	制作物の発表方法、内容について評価する		
	課題完成度	40%	提出課題完成度を総合的に評価する		
	リサーチ	20%	制作準備と過程を評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	講師の仕事紹介 ガイダンス		講師の仕事紹介 ガイダンス		
2回	製品調査		どのように製品を見るか？		
3回	使いやすい製品報告書		報告書作成と発表		
4回	製品のリデザイン		製品の改善、改良した10案スケッチ		
5回	製品のリデザイン		製品の改善、改良した10案スケッチ		
6回	製品のリデザイン		製品の改善、改良した10案スケッチ 発表		
7回	スケッチ指導		スピードシェイプスケッチ		
8回	スケッチ指導		アイデアスケッチ		
9回	スケッチ指導		アイデアスケッチ		
10回	造形素材演習		スピードシェイプモデル制作1 切り出し		
11回	造形素材演習		スピードシェイプモデル制作2 荒削り		
12回	造形素材演習		スピードシェイプモデル制作3 削り		
13回	造形素材演習		スピードシェイプモデル制作4		
14回	造形素材演習		スピードシェイプモデル制作5 磨き		
15回	造形素材演習		スピードシェイプモデル発表		